

## 01 目的

お客様へ健康をお届けする企業として、従業員が積極的に健康づくりを行う環境・機会をつくっていく。メンタルヘルスや生活習慣病予防に取り組むとともに、酒類メーカーとして従業員の適正飲酒が社会の手本となるよう取り組んでいる。  
従業員がよりいきいきと働き、組織風土を高めるために、柔軟な働き方を実現する制度を施行し、働きやすい環境を整えていく。「メンタルヘルス」「お酒との付き合い方」等を重点項目として、従業員が心身の健康への関与を高め、健康維持・増進に向けて自律的に行うためのサポートを実施している。

## 02 課題・目標

## 健康経営で解決したい経営上の課題と効果



## 課題：②組織の活性化

健康経営で解決したい経営上の課題	「ウィズコロナにおける新たな働き方」に移行していく段階になっており、心身の健康状態が思わしくない環境や状態では、「働きがい」をもち生産性向上を続けることが難しい。従業員一人ひとりの健康を第一に「働きがい」を持ち、個人の持つ能力を最大限発揮できるいきいきとした組織風土へと繋げたい。
健康経営の実施により期待する効果	一人ひとりが明るくいいきいきと働ける環境や機会をつくっていくことで、従業員が積極的に健康づくりを行い心身の健康への関与を高め、「働きがい」をもって最大限の能力の発揮を期待し、会社と従業員の関係を「仕事を介したイコールパートナー」とすることを旨とする。具体的な指標として、エンゲージメント調査「ワークライフバランス・働き方改革」を2018年よりも向上させ、ストレスチェック「いきいき度」115を目指す。

## 自社従業員（組織）の課題と目標



## ●重点課題1



## ⑭メンタルヘルス不調等のストレス関連疾患の発生予防・早期発見・対応に関する課題

課題内容 コロナ禍により働き方が変わる中、メンタルヘルス不調者の未然防止と心身健康的で働きがいのある職場づくりが課題

目標	数値	年度
	目標値	115.0ポイント

## ●重点課題2



## ⑩生活習慣改善（運動・睡眠・食生活等）に関する従業員の課題

課題内容 会社として「一人ひとりが日々いきいきと健康な状態で働くことで、常に高いパフォーマンスを発揮でき、働きがいを高めている状態」を目指している。また、酒類メーカーとして従業員の適正飲酒が社会の手本となるよう適正飲酒の徹底と飲酒習慣の改善を図る必要がある。コロナ禍において、生活様式が大きく変化してきた中で、日頃から各自が健康意識を持ちセルフコントロールを行いベストな状態を各自が維持向上できるようになることが課題

目標	飲酒習慣スクリーニングテスト (AUDIT) 点数10点未満の割合	
	数値	年度
目標値	78.0%	2021

## 04 健康経営の成果

## 経営上の課題に対する健康経営の成果

キリングroupは、長期経営構想において「世界のCSV先進企業となる」ことを目指している。最も重要なベースとなるのは、従業員自身が「健康」であること。従業員一人ひとりが健康であることが、結果的にCSVへの貢献に繋がると考えている。  
2017年から健康に関わる重要な課題として捉えている「生活習慣病」「メンタルヘルス」「働く環境」「お酒との付き合い方」を4つの柱として、取り組んでいる。  
成果指標として以下を設定し、いずれも目標達成。  
①健康経営ホワイト500の認定取得 → 6年連続継続認定  
②エンゲージメント調査「ワークライフバランス・働き方改革」2018年よりも向上達成  
③ストレスチェック「いきいき度」目標115 → 結果116  
④飲酒習慣スクリーニングテスト (AUDIT) 点数 10点未満78%以上 → 結果84.6%

## 03 施策・実績

## 健康経営の取り組み

## ●施策内容&lt;重点課題1&gt;



ストレスチェックの結果をもとに、高ストレス者へのアプローチを行うとともに、集団分析結果を活用し、組織の活性化とリスク軽減につなげている。

## ストレスチェック「いきいき度」

	数値	年度
取組前実績値	112.0ポイント	2019
現在の実績値	116.0ポイント	2020

## 具体的な実践内容1

分類	外部サービス
名称	Wellness Eye
提供元社名	SBアットワーク株式会社
内容	ストレスチェックの実施・集計・分析・フィードバック
導入時期	2017年度
選択理由	●価格 ●効果 ●機能・性能 ●使いやすさ
評価 (定量・定性)	●ストレスチェック実施後は、組織ごとの集団分析のフィードバックシートを提供してもらうとともに、コンサルタントによる報告会も実施している。報告会での指摘事項を踏まえ、組織改善に取り組んでおり、その成果もあり、いきいき度が(2019年112→2021年116)に改善(全国平均=100)。会社の活性度が向上している。 ●グループ企業36社約2万人が受検しているが、企画、運営、報告会に至るまで、円滑に実行してもらっている。グループ企業全体で同一のコンサルタントに担当してもらっており、各社・各事業所の実情を踏まえたフィードバックをもらえている。

## 取り組みにおける課題や困っていること

実施している施策の課題	特にAUDIT(適正飲酒)の取り組みに関しては、コロナ禍において生活や働く環境が大きく変化したことから、結果として大きく改善した数値が内的要因・外的要因なのかが、仮説でしかなく判断つきかねる懸念もある。今後のサーベイの結果で振り返り等注視して必要があると考えている。
今後取り組みたい施策の課題	現行の健康経営をさらに強化するため、健康経営推進体制を整備しグループ横断PDCAをより強化・推進していく必要があると考えている。 また、現在プレゼンティーズムは毎年調査を実施しているが、結果分析から施策へ繋げることが不足しているため、今後しっかりと情報をリサーチして取り組む必要があると考えている。

## ●施策内容&lt;重点課題2&gt;



春と秋に適正飲酒研修を実施し、適切な飲酒行動の理解を深め自身の飲酒習慣、および行動の意識付けを行っている。

## 飲酒習慣スクリーニングテスト (AUDIT) 点数10点未満の割合

	数値	年度
取組前実績値	77.1%	2019
現在の実績値	84.6%	2021

## 具体的な実践内容1

分類	外部サービス
名称	飲酒習慣スクリーニングテスト (AUDIT)
提供元社名	世界保健機関(WHO)の調査研究により作成されたスクリーニングテスト
内容	飲酒量が適正なものなのか、問題があるかどうか、飲酒習慣をチェック
導入時期	不明(相当以前から導入し、適正飲酒を推進している)
選択理由	●効果 ●実績
評価 (定量・定性)	●飲酒習慣スクリーニングテストの結果10点未満が19年より7.5%上昇し、84.6%と大きく改善。 ●今後改善した状態を維持していくため、ハイリスク者に対するアルコール摂取の適正化プログラムを計画し、さらなる適正飲酒習慣の意識づけを図っていく。 ●自身の飲酒習慣に問題がないか、スクリーニングテストでセルフチェックし飲酒習慣の見直しに繋がる。取り組みを通じて、お酒と健康についてのリテラシーを高めることができています。